



DxO Optics Pro v5.0.3b リリースノート (build 6569)

Windows:

v5.0.3 と比較しての新機能

- Nikon D300 のサポート

v5.0.2 と比較しての改善点

- 起動時のクラッシュの解消。以下参照。
 - スプラッシュスクリーン上で、搭載補正機能リストの表示中のクラッシュ。
 - DirectX がサポートされていない (DxO Optics Pro がグラフィックカードを使えない) 場合のクラッシュ。
- 2D カード (例 : Matrox 2D) のサポート追加。
- DxO FilmPack がインストールされていなくても、ICC プロファイルのインポートが可能。
- DxO Lighting を使用中、場合によって [補正画像表示エラー] メッセージが出るバグの解決。
- カスタム ICC プロファイルを適用しても、バッチ処理が可能。
- 大量の画像をプロジェクトウインドウに取り込んだ場合のバグを解決。
 - 画像のサイズが変更できない。
 - コンテキストメニューが使えないことがある。
 - メモリーのフル活用不可とメモリーリークのバグ。
- Adobe® Lightroom™ 用プラグインで、クイックコレクションが利用可能。注意 : Adobe Lightroom カタログが Adobe Lightroom 指定のデフォルトの場所に入っていない状態で Adobe Lightroom 用プラグインを使おうとすると、クラッシュが起きます。
- 自動アップデートチェックの無効設定可能。
- DxO Optics Pro のヘルプメニューを使って、DxO モジュールの追加をする際のバグを解決。
- ワコム製の一部タブレットとの互換性の問題を解決。
- サムネイル画像の黄色の三角の警告アイコン [この画像の補正に必要な情報が不足しています] が、入力後も消えない問題に関する一時的な修正。情報不足の問題は残りますが、このバージョンではこのアイコンを非表示にしています。 [ジオメトリー] の補正パレットで撮影距離を手動で入力することは可能です。この問題の最終的解決は、今後のリリースで行う予定です。
- 出力画像のファイル名への追加接尾辞に関する問題を解決。
- 圧縮 TIFF 形式が出力設定されている場合、バッチ処理の際、画像がエラーになるバグを解決。
- 入力画像のファイル名にダブルスペースが使われている場合、画像がエラーになるバグを解決。
- 壊れた ProfileList DLL が作成されるバグを解決。
- Canon EOS 20D と 350D (Rebel XT) のノイズ除去レベルの改善。
- プロジェクトウインドウでプロジェクト名の変更が可能。
- [編集] メニューの [プリファレンス] で、プロジェクト履歴 (OpticsProDBv5.opdb とサムネイルファイル) の保存場所の変更可能。
- GUI (グラフィック ユーザー インターフェイス : スクロールバー、スライダー等) の反応の改善。(プログレスバーのフィードバック。)
- 複数の画像の処理がスムーズに行えるようになった。
- NET 3.5 がインストールされているか自動的に確認し、そうでない場合はインストールします。

- 画面表示サポートの改善（VMWare の Remote desktop）。注意：これは DxO Optics Pro 用にテスト／サポートされている環境ではなく、お勧めできません。

既知の問題点

- ダウンロードマネージャを使って DxO モジュールを追加する際、DxO Optics Pro を終了してから DxO モジュールのダウンロードを開始してください。
- DxO Optics Pro が起動しているときに v5.0.3 にアップデートしようとしても実行されない。（ヘルプメニューの「アップデートをチェックする」を使った場合。）
- まれに、補正処理を開始しても実行されない。
- まれに、DxO Optics Pro プロファイル履歴データベースが画像の処理後に壊れる。このため、再起動時にアプリケーションがクラッシュする。
- まれに、40 枚から 400 枚の画像を処理する際、DxO Optics Pro がクラッシュすることがある。
- Konica と Sony の画像ファイルで、EXIF 情報が失われる。
- バッチ処理後、アプリケーションが表示する処理画像の数が実数と一致しない。
- 水平／キーストーンの回転の微調整ができない。
- 「他のソフトウェアを使って開く」コマンドが DxO Optics Pro で使えない。
- DxO Optics Pro の初回起動時は、デフォルトで英語のインターフェースで起動するため、手動で他の言語に切り替える必要がある。

その他

- 画像の回転に関して：DxO Optics Pro は、ソフトウェアが読み込んだ通りに画像を出力します。これにより、画像の回転に関して混乱が生じています。ポートレートモード（縦長）で撮影された画像は、カメラによって、風景モード（横長）の状態で保存されますが、ポートレートモードで表示されるように EXIF タグに指示されます。DxO Optics Pro はこの画像と EXIF タグを読み込み、サムネイル画像表示の前に正しく回転して表示します。補正処理後、DxO Optics Pro は出力画像ファイルに全く同じ方法で書き込みます。つまり風景モードで記録され、EXIF の回転表示のタグによりポートレートモードで表示されるように指示されます。この出力ファイル（これは元画像と同じ方法で記録）を EXIF の回転情報タグを読み込まないソフトウェアを使って開いた場合、風景モードで表示され、混乱が生じます。これは Windows Picture & Fax Viewer を使用した場合、またはウィンドウズ上のサムネイル画像で顕著です。ユーザーが画像を DxO Optics Pro で回転させた場合にも、似たような現象が起きます。これは出力画像ファイルの EXIF の回転タグだけに記録され、他の EXIF 回転タグを読み込まないソフトウェアで開いた場合、画像が正しく回転されません。
- 同じ画像に対して RAW と JPEG の両方の形式が設定され補正処理された場合、出力ファイル名の混同を避けるために RAW ファイルには、常に接尾辞「_RAW」が付加されます。（これは変更できません。）